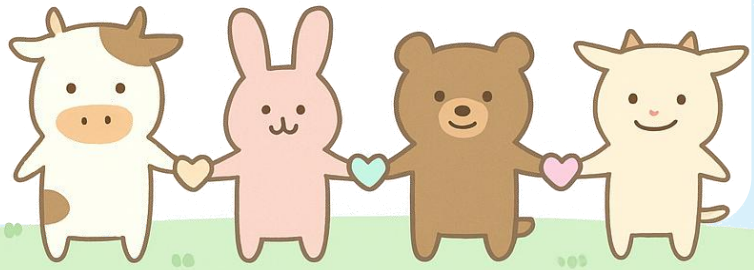
こころを支える薬剤師

精神科の薬剤師の世界をのぞいてみよう

日本病院薬剤師会　精神科病院委員会

Ver 1.0



精神科の病院でこころを支える薬剤師

みなさんは、精神科病院の薬剤師にどのような
イメージを持っていますか？

ここでは、普段あまり目にしない
精神科の薬剤師の世界と魅力を紹介します

精神疾患は身近な疾患

精神疾患って、実はとても身近な疾患です。

●患者数は約６００万人と、五大疾病の中で最多
（精神疾患、糖尿病、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患）

『特別な疾患』ではなく、誰もが成り得る
ありふれたものです。

「もし身近な人が精神疾患になったら‥」と想像すると、イメージが変わるかも。

精神疾患は怖い？

精神疾患は、周囲から症状がわかりにくく、患者の状況を理解しにくい面があります。

病気を知り、患者が置かれた状況が推察できれば、理解し難い患者の言動も、ある程度推察できるようになります。

表出している症状や患者の行動に、病気、生来の性格、生い立ち、病気の知識や理解などが、どう影響しているかを意識すると、具体的な対応を検討しやすくなります。

ポイント　患者の立場になって考えてみる。
病気と人柄を分けて考える。

精神科は薬剤師の活躍の場が広い

精神疾患の主な治療法

精神療法
薬物療法
心理・社会的治療

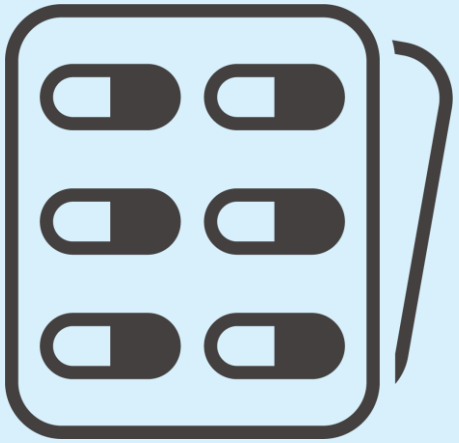
精神科では、薬物療法が中心的な役割を担っており、
薬剤師の活躍の場が広い診療科です。

精神科の薬剤師の専門性と魅力

- 薬物療法×コミュニケーションの専門性
- 患者の“理解”に寄り添う服薬支援
- 退院後の生活を見据えたサポート
- 薬物療法のジェネラリストとして精神科医をサポート
  （抗菌薬、輸液、腎機能評価と投与設計、外用薬、その他身体疾患等）

これらは、チーム医療での幅広い貢献に生きてきます

薬物療法の専門性



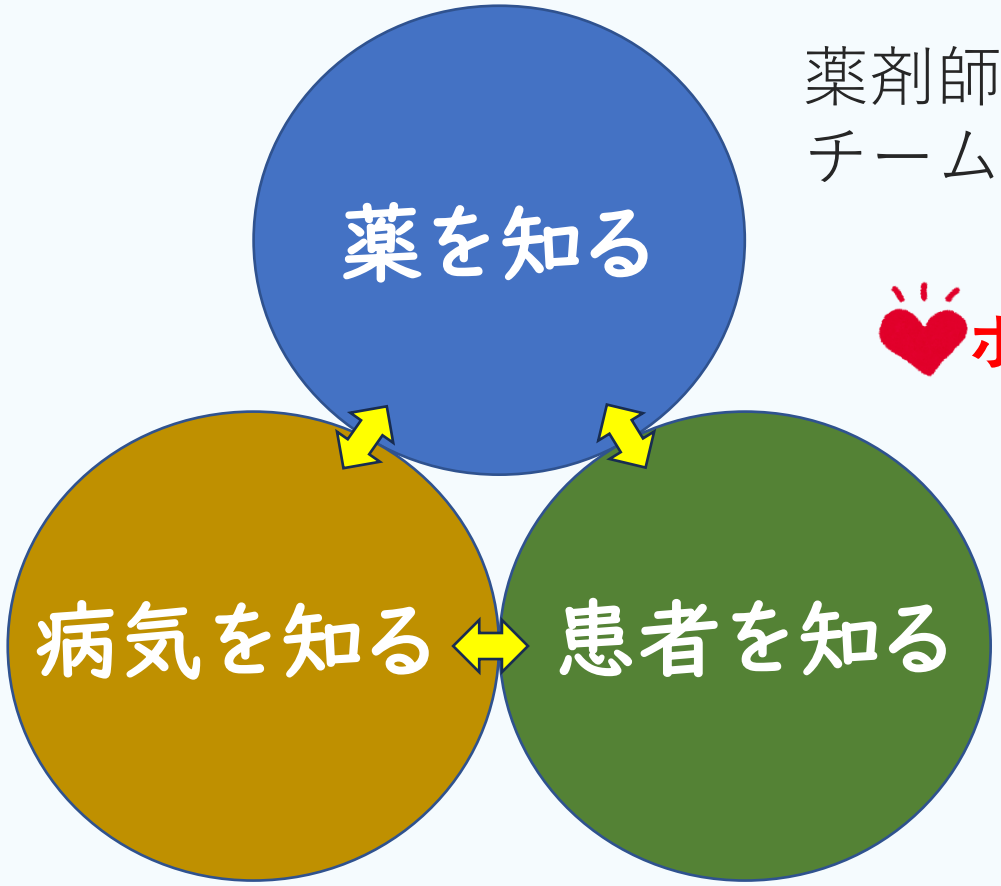
患者の個別性とオーダーメイド対応

- 精神科薬物療法は個別性が高く、個々の患者に合った**オーダーメイド**の処方調整が求められます。
- 服薬指導の内容にも、患者の理解に応じた配慮や工夫が必要です。
- 主要な情報は患者本人から得る必要があり、患者との良好なコミュニケーションが求められます。

薬剤師の能力が求められる場面が多く、腕の磨き甲斐があります

処方の理解と説明に大切な３つの組み合わせ

精神科の薬と病気の知識に加え、個々の患者を良く知ることで、
個別性に配慮した薬物療法や服薬指導の方向性が見えてきます。



薬剤師として成長を感じたり、自分の能力が患者やチーム医療の中で役立っている実感が得られます！

ポイント

妄想が原因で周囲とトラブルになった患者であれば、抗精神病薬の効果を、

「周囲との認識のズレを減らす薬です、トラブルは避けたいですよね」

など、その患者が納得しやすい表現で伝えられる。

病気の知識を指導に生かす

- 病気には標準的な薬物療法や処方意図、留意点があり、指導に生かしやすい。
- 様々な症状に目が届きやすく、患者が置かれた状況を把握しやすい。
- 患者の状況が把握できれば、疾患や症状に合った服薬指導や処方提案ができる。
- よくある誤解や理解の偏りなども見つけやすくなり、服薬指導に生かせる。

うつ病患者の例

- 改善は一直線ではないのに、少し悪くなったときに落胆してエネルギーを浪費する場合がある。
- 不安や不眠は早期に改善しやすいが、物事を楽しめるようになるのは遅めのため、周囲からの評価と自身の実感のギャップに困惑していることがある。
- 初発患者と再発を繰り返す患者では、服薬継続の期間が大きく異なる。
- 患者によって、環境や生活などの影響も大きい。薬だけではない。

薬の知識の具体例

向精神薬の分類　：各分類（小分類）の役割や特徴の理解
受容体親和性　　：各薬剤の特徴を把握
副作用への対処　：患者と状況に合った対処法を提案できる
向精神薬等価換算　：他剤への切り替えや、現状把握の目安に
薬物動態や相互作用　：作用や副作用が出やすい時間帯や投与方法の検討
多剤大量処方の改善　：状況に合わせ、どの薬剤をどう減らすか提案できる
クロザピンの適正使用：検査や処方スケジュール管理、様々な副作用対策
妊娠希望患者への対応：向精神薬は相談多め。催奇形性や出産時のリスク回避
他にも多々あります。

状況によって異なる薬の役割

同じ薬でも、患者の病気や症状、処方の組み立てによって役割が異なります。

	統合失調症	躁うつ病	うつ病
非定型抗精神病薬	抗精神病作用（抗幻覚妄想作用） 再発予防	気分の波の安定 （精神病症状を伴う場合は、抗精神病作用も）	抗うつ薬の増強療法 （精神病症状を伴う場合は、抗精神病作用も）
炭酸リチウム	衝動性や興奮を抑える	気分の波の安定	抗うつ薬の増強療法
SSRI	こだわり(強迫症状)の改善 不安・抑うつの改善等	抑うつエピソードの改善	抗うつ効果

ほんの一例です。病気や症状、処方の組み立てにより様々です。
本来の適応から外れたものが一部含まれています。

コミュニケーションの専門性

コミュニケーションを生かす

- 精神科では、検査値による薬効･副作用評価がしにくい
- 薬効や副作用に個人差が大きい
  薬剤反応性や過去の処方歴から、個々の患者に合った薬物療法を推察。
- 会話から患者の理解度を把握し、必要に応じて理解を整理
- 患者から本当のことを教えてもらえる関係性

自然に話しかけてみることから関係づくりが始まる。
患者も、一人のヒトとして接してほしいと思っている。
“動機付け面接”などのコミュニケーション技法も参考に。

雑談や自己開示 → 仲良くなれる → 貢献に生かす → 回復を助ける

コミュニケーションと服薬継続について

- 精神疾患は慢性の経過をたどる患者が多い。
- 再発予防のためには長期に渡る服薬継続が必要な場合が多いが、服薬中断により再発する患者が多い。

薬剤師にできる大切なこと

服薬が継続できない本当の理由を探る

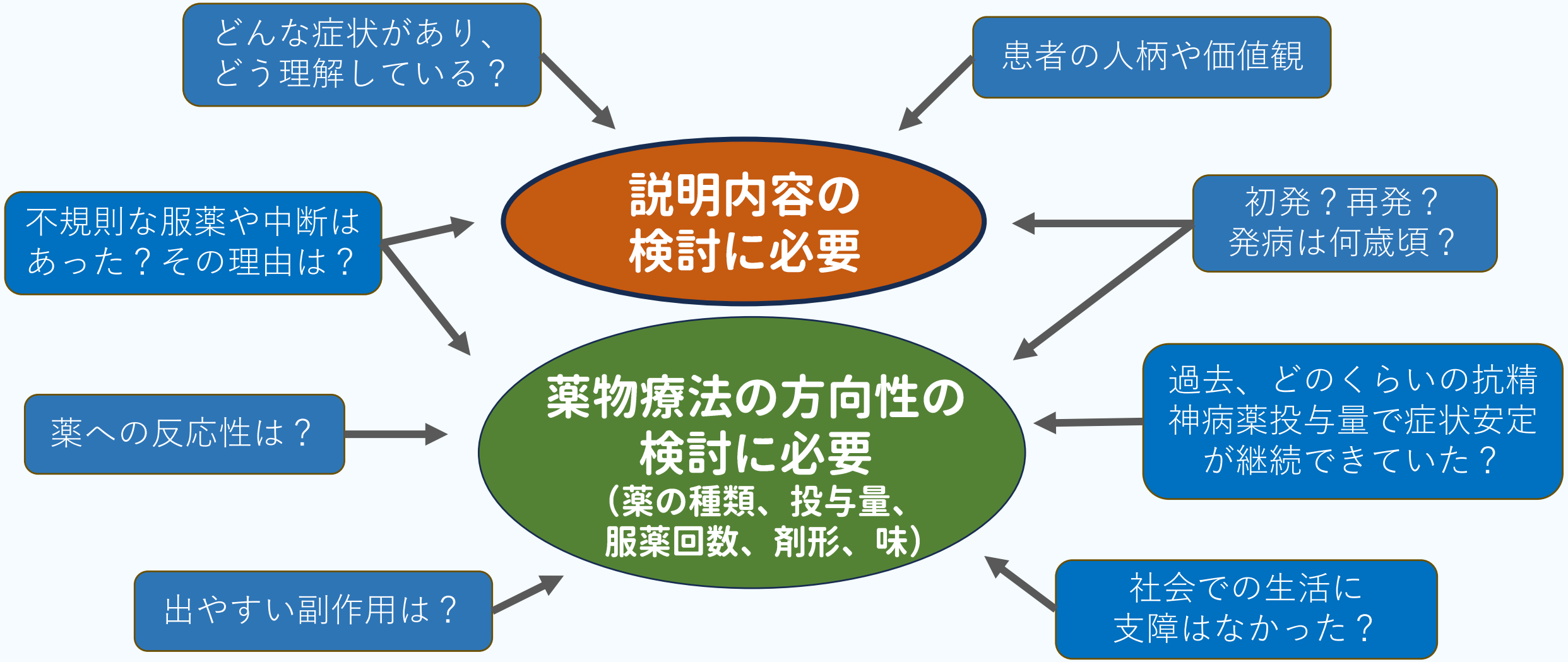
・病識の欠如（自分は病気ではない）
・病気への偏見（薬を飲んでいると病気と縁が切れない）
・患者が持つ価値観
・精神症状（妄想、猜疑心など）
・病気や治療の理解不足、知識不足
・副作用、他

理由がわかれば、対応しやすい！

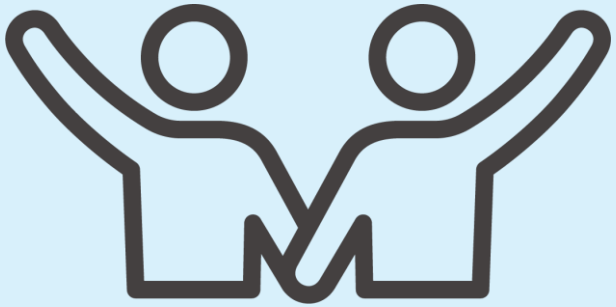
コミュニケーションと貢献の好循環

- 病気だけではなく、ヒトに関わる。（全人的関与）
- 患者に関心を持ち、価値観や好み、心境、副作用歴、過去の治療反応性、病気や症状の理解を把握して、より伝わる説明に生かす。
- 患者を大切に思う気持ちや行動が、患者の気持ちや行動にも影響する
- コミュニケーションと貢献を重ねて信頼関係を構築。
  （正しいことを伝えても、患者に信用されなければ意味がない）
- 信頼関係を生かして、薬の説明や服薬継続の理解につなげる。
- 得られた情報を薬物療法の改善に生かすことで、患者の回復を助ける。

患者情報の生かし方（統合失調症患者の一例）



患者の“理解”に寄り添う服薬支援



心境の理解と共感

- 誰だって、精神疾患に罹患するなんて思っていなかった
- 病気の症状による苦痛　陽性症状・陰性症状・認知機能障害
  （幻聴や被害的な感情、猜疑心、色々と気になって心が休まらない）
- 発病後の能力低下について
- 自身が信じること（妄想）を訴えても、信じてもらえない苦痛
- 今後の人生に対する不安
- 病状に左右された行動に対する自責や周囲との関係悪化

境遇の理解に役立つ書籍

特に統合失調症は、患者の病的体験や心境をイメージしにくいので、これらが伝わる書籍を一読しておくのがオススメです。

- レッツ！当事者研究（地域精神保健福祉機構・コンボ）
- べてるの家の恋愛大研究（大月書店）
- ボクには世界がこう見えていた 統合失調症闘病記（新潮文庫）

他にも多数あります。

患者の理解に寄り添う

- 病気や治療に対する患者の理解を把握
  患者によって理解は様々です。これまでの経過や患者とのコミュニケーションを通じて、病気や治療に対する患者の理解を把握します。
- 妄想等への対応
  信じていることを否定されるのは誰にとっても辛いことです。むやみに否定すると患者を精神的に追い詰めることにもなりかねません。
- 正しさは人を追い詰めやすい
  病状や患者が置かれた状況をくみ取り、患者のためになる正しい情報を、患者の心情に配慮しながら伝えられることが大切です。

支え、支えられ

人を助けることは、自分の気持ちを助けることにもつながります。
患者を支えているようで、患者からも支えられているわけです。

人を知ることは、自分を知ることにもつながります。
精神科には、自分を知るという側面があります。

患者の生活を見据えたサポート

患者の生活を見据えたサポート

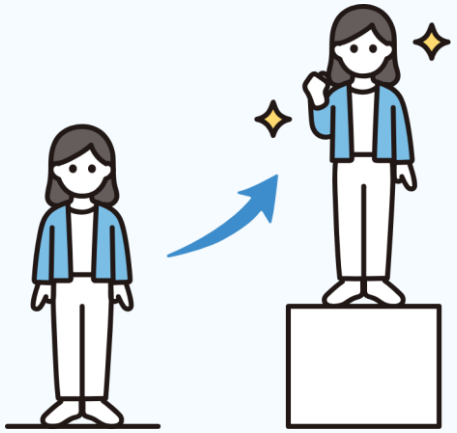
- 精神科では、経過が長期に渡ることが多く、患者の生活に配慮した薬物療法が求められます。
  家事、作業、仕事など、日中の過ごし方や生活のリズムなどに配慮した薬物療法を検討。再入院時には薬物療法の改善点を検討
- 入院中と退院後では、患者の生活にも違いがある。
  退院後は、生活の違いから薬物療法に関する問題が顕在化しやすい時期です。服薬が患者の社会生活を邪魔しないよう、服薬回数や服薬タイミング、眠気、認知機能など、退院後の生活を見据えた処方提案などを実施。

一度の入院だけではなく、その後の長い経過を通じて患者を支え、結果的に患者の回復に貢献する。

薬物療法のジェネラリストとして貢献

精神科以外の領域も経験できますか？

全然大丈夫！



- 抗菌薬の薬剤選択
- 腎機能評価と投与設計
- 外用薬の薬剤選択
- 輸液の配合や薬剤選択
- 糖尿病治療薬の薬剤選択
- 便秘、排尿障害への対応
- 患者ニーズに合った薬剤の採用
- その他　多岐に渡ります

薬剤師には、精神科医が専門外とする幅広い領域についての関与が求められます。

マンダラチャートで精神科の薬剤師の魅力を探る

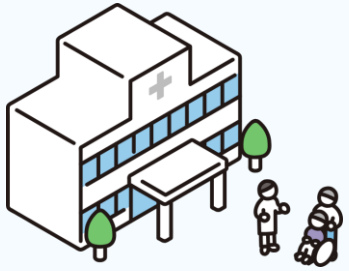
クロザピンの適正使用	体内動態や相互作用	多剤大量処方の改善	LAIの説明と導入	服薬継続	副作用への対処	病気と人格を分ける	自分の中の偏見に気付く	様々な偏見があることを知る
副作用への対処	**向精神薬を使いこなす**	処方の組み立て	効果的な治療	**再発予防**	病識や理解に合った説明	ハンセン病などに学ぶ	**偏見をなくす**	心境の理解と共感
腎機能評価と用量調節	受容体親和性	向精神薬等価換算	飲み忘れない工夫	好みに配慮した処方	服薬し易い剤形/用法	患者を身内と考えてみる	人として関わる	精神疾患を知る
薬物療法の役割	病態と予後	様々な治療法と特徴	**向精神薬を使いこなす**	**再発予防**	**偏見をなくす**	患者の価値観、理解	病気を否定したい心境	経過、過去の治療反応性
再発予防	**精神疾患の知識を指導に生かす**	患者の心情を推察	**精神疾患の知識を指導に生かす**	**精神科患者の回復を助ける**	**患者を知る**	生活状況	**患者を知る**	伝わる説明、話す速度
回復プロセス	病気の特徴と患者応対	病気と処方の関連性	**体の健康**	**信頼関係**	**社会生活を支える**	副作用歴	コミュニケーション	薬や剤形の好み
抗菌薬の適正使用	活動的な生活	メタボ対策	SDM	失敗を責めない	全人的な関わり	調剤方法の検討	認知機能	服用回数、タイミング
身体疾患の薬物療法	**体の健康**	フレイルや痩せの予防	患者を支える姿勢	**信頼関係**	患者を知ろうとする姿勢	生活リズム	**社会生活を支える**	地域の保険薬局と連携
下剤の適正使用	ポリファーマシー対策	NST、褥瘡対策	本当の事を教えて貰える関係性作り	患者から得た情報を患者に役立てる	貢献を重ねる	生活を邪魔しない処方	食生活	薬剤サマリー

あなたも精神科領域で活躍してみませんか？

- コミュニケーションや精神科薬物療法などの専門性を生かして、患者やチーム医療に貢献する。
- ジェネラリストとして、精神科以外の領域についても経験を重ねる。
- 夜勤が少なく、ワークライフバランス良好。

多方面から患者のこころを支え、長期的な回復を助けられるよう日々活動しています！

精神科の病院を見学してみよう！



日本病院薬剤師会ホームページ
見学会などの就職セミナー・イベント一覧
https://www.jshp.or.jp/system-ss/publish/index.php

また、個々の病院のホームページで求人情報等が掲載されていれば、基本的に見学に対応してくれます。

見学すると、周囲の環境や病院内の雰囲気が分かりやすいです。
気になる病院は、一度見てみるのがオススメです！

2026年5月作成